

商学専攻 TOPICS

商学専攻の教員が各自の研究の魅力・面白さなどを紹介しています。大学院のカリキュラム紹介のページなどと併せて参考にして下さい。

秋川 卓也（あきかわ・たくや） 教授

担当科目名： 物流論特殊講義A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

日本のロジスティクス、物流、サプライチェーンマネジメントを専門にしています。輸送や荷役などの単独機能に限定しない、システムアプローチに基づいて研究しています。最近では取引関係データを活用した社会ネットワーク分析にチャレンジしています。

ロジスティクスや物流を対象とした研究の面白さは体系性にあると考えています。機能やコストの間には無数のトレードオフや補完性があります。システムの動態性を説明できる知見を発見することが主要な研究目的となります。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/read0103873>

雨宮 史卓（あめみや・ふみたか） 教授

担当科目名： マーケティング論特殊講義A・B、商学演習1、商学演習2

研究の紹介・アピールポイントなど：

ブランド・マネジメント、プロモーション戦略を専門としています。現代のマーケティングでは、商品の機能的価値だけでなく、ブランドが持つ感覚的・情緒的価値や、社会・文化的な象徴的要素がますます重要になっています。本研究では、消費者を単なる「購買者」ではなく「生活者」として捉える視点から、文化・グローバルな文脈を横断したマーケティング理論を共に探究します。映画や音楽といった文化的コンテンツも視野に入れながら、現代社会における多様なブランドや情報発信のあり方を深く考察していきます。強い関心と意欲を持つ方の参加を期待しています。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/read0067108>

大島 考介（おおしま・こうすけ） 教授

担当科目名： 財政学特殊講義A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

公共経済学、財政学を専門にしています。以前は租税競争等、近年は混合寡占の分野で研究を行っています。租税競争とは国同士などで資本などの誘致を巡って税を道具にして競争することをいいます。混合寡占とは公企業と私企業が寡占市場で競争する状態のことで、民営化などがテーマになります。

経済学の理論モデルを使った分析では意外な結論が得られることもしばしばあり、そのようなところに研究の面白さを感じています。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/read0212623>

岡田 太（おかだ・ふとし） 教授

担当科目名：保険論特殊講義A・B

研究の紹介・アピールポイントなど：

研究分野はリスクと保険です。保険と聞くと特殊なイメージを持たれるかもしれませんが、1895年に保険学会が創設されるなど、商学では長い歴史を誇る学術分野の一つです。

保険はリスクを処理する手段として、共同体、市場、国（政府）の経済システムにおいて重要な役割を担っています。保険研究は経済学をベースとする市場研究が主流ですが、国や共同体の働きに着目し、体系化を目指しています。とりわけ、これらの中間組織である協同組合による保険（共済）については長年研究を続けています。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/read0192270>

木口 武博（きぐち・たけひろ） 准教授

担当科目名：マクロ経済学特殊講義A・B

研究の紹介・アピールポイントなど：

研究分野は、国際労働移動のマクロ経済分析です。国境を越える人の移動が経済にもたらす影響について、理論と実証の両面から研究しています。

具体的には、移民の流入が受け入れ国の雇用や経済に与える影響や、為替変動などの海外経済環境が移民の流出・送金行動に及ぼす影響を分析しています。

演習では、身近な問題を読み解くための理論モデルの基礎を学び、現実の複雑な経済事象を経済学の視点から論理的に説明する力を養うことを重視しています。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/read0129929>

岸本 徹也（きしもと・てつや） 教授

担当科目名：商学（総論）特殊講義A・B、現代日本のビジネス事情、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

研究分野は小売業のマネジメントです。チェーンストア組織を展開する小売企業の本部や店舗組織の仕組み、店舗運営方法についてフィールドワークによる事例研究に取り組んでいます。

小売業のマネジメントを学ぶためには、商学や経営学の知識が必要になります。前期の特殊講義Aでは、小売マネジメントに必要な流通論、マーケティング論および組織論、戦略論の基礎を学びます。後期の特殊講義Bでは、小売マネジメント論に関するテキスト『体系 小売マネジメント』の各章を担当者に発表してもらい、その発表内容から議論を展開していきます。

日本のサービス、小売業の仕組みに関心のある大学院生の参加をお待ちしています。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/tetsuya-kishimoto>

木村 雄一（きむら・ゆういち） 教授

担当科目名： マクロ経済学特殊講義A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

研究分野は、ミクロ・マクロ経済学の理論史・思想史をベースとした現代経済学の全般的な研究です。経済学はアダム・スミスに始まり、ジョン・メイナード・ケインズによってマクロ経済学が誕生しましたが、アーヴィング・フィッシャーやミルトン・フリードマン、ヨゼフ・アロイス・シュンペーターなど数多くの経済学者たちの叡智によって、現代経済学が形成されてきたことは言うまでもありません。経済学が現在に至るまでどのような変遷を辿り、今後はどのように展開するのだろうか。本授業では、マクロ経済学の体系的な理論がどのような問題意識で形成されてきたのかという理論史・思想史に依拠しつつ、マクロ経済学全般を学ぶことを目的とします。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/7000011522>

竹内 真人（たけうち・まひと） 教授

担当科目名： 商業史特殊講義（I）A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

私の研究分野は、イギリス帝国史で、19世紀のイギリス宣教師の活動とイギリス商業・イギリス帝国拡張との関係を分析してきました。近年では、ブレグジット後のアングロ圏（イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ合衆国）の紐帯強化に注目しながら、イギリスの勢力圏としてのブリティッシュ・ワールドの歴史の変遷を分析しています。

商業史特殊講義（I）A・Bと商学演習では、イギリスを中心に形成された資本主義的世界システムの歴史の変遷を感情的紐帯（血縁、宗教、言語）・経済的紐帯（産業、商業、金融）・軍事的紐帯（武器移転、軍事援助）の諸相に注目しながら考察しています。現代のグローバルな近代資本主義的世界経済がどのように誕生したのか、その歴史に興味のある大学院学生の参加を期待しています。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/read0151595>

張 喬森（ちょう・きょうしん） 教授

担当科目名： 貿易論特殊講義A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

専門は国際経済学です。グローバル経済の仕組みを解き明かす研究に取り組んでいます。特に、海外直接投資（FDI）を軸に、国際経済の深い理解を目指します。理論モデルと統計分析を用いて、FDI決定のメカニズムを考察します。

なぜ企業は海外に進出し、どのような要因がFDIに影響を与えるのか？政府はFDIをどのように促進・規制すべきなのか？これらの問いに対する答えを探求することで、FDIがもたらす多角的な影響を明らかにします。さらに、分野横断的な視点を用いて、FDIの波及効果と政策的含意を考察します。

国際経済、特に企業の海外展開に関心を持つ学生を歓迎します。一緒に研究を通して、海外直接投資の深い理解を深めていきましょう。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/JosephChang>

S. J. バイスウェイ（さいもん・じえいむす・ばいすうえい） 教授

担当科目名： 金融史特殊講義A・B

研究の紹介・アピールポイントなど：

サイモン・ジェームス・バイスウェイは、日本大学商学部で日本経済・金融史を専攻する教授です。研究成果として、43 ジャーナルの記事や本の章を執筆し、4冊の単行本が米国および日本の主要な学術出版社から出版され、40を超えるエッセイが雑誌やウェブマガジンに掲載されています。現在の研究は、日豪関係の商業史および連合軍占領下の日本と韓国の関係史をテーマとして研究を進めています。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/read0105212>

長谷川 勉（はせがわ・つとむ） 教授

担当科目名： 金融機関論特殊講義 A, B

研究の紹介 ファイナンスは経済活動ひいては社会全般においてきわめて中心的な現象です。そこで、その中でも銀行等の金融機関について、それらを取り巻く経済環境・制度を分析し、金融機関がどのように行動してきたか、そしてこれからどのように行動するのかについて研究することを目的としています。領域は広く、金融論を基盤として、経済学、経営学、マーケティングの一部の知識等が必要となってきます。それらを駆使して、歴史的、思想的、理論的に研究しています。

・アピールポイント（先生のこと、あるいは演習のことなど）学生を含めてすべての人が探究者だと思っています。フラットな関係の中で、対話を大切にしながら講義を行っています。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/read0028004>

堀田 治（ほった・おさむ） 准教授

担当科目名： 消費者行動論特殊講義A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

舞台芸術のマーケティング研究を起点として、鑑賞者の認知および非鑑賞層の行動阻害要因の研究を消費者行動論の理論に基づいて行っています。また、この領域で培った知見をもとに、アウトドアやライブ、旅行など体験的な消費と、その経験価値についても研究しています。研究成果は劇場経営への示唆はもとより、店舗における顧客体験デザインや近年注目されているコト消費の構築にも活かせる内容になっています。研究は消費者行動研究の知見と方法論に則って行っており、これまであまり研究対象とされてこなかった分野のため発見も多く、新たな概念や知見が得られたときは研究の醍醐味を感じます。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/hotta.osamu>

松原 聖（まつばら・きよし） 教授

担当科目名： 貿易論特殊講義A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

今年度の貿易論特殊講義Aでは、伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学 15 講』新世社、2022 年を履修者と輪読しています。国際貿易の理論の基礎を学ぶなどして、世界経済・日本経済の諸問題を幅広く議論することを目指しています。

専攻は国際経済学で、日本企業の海外進出やサービス貿易としての観光を主に研究しています。大学院生の論文指導はテーマを国際経済に限定せず、日本の産業・企業の事例研究など、大学院生の興味に応じて行っています。ぜひ商学研究科に興味を持って、オープンキャンパスなどに足を運んでもらえればと思います。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/read0077789>

水野 学（みずの・まなぶ） 教授

担当科目名： 商学（総論）特殊講義A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

私の専攻はユーザー・イノベーションです。技術や製品の開発は、メーカーの役割だと考えるのが一般的ですが、実際に調べてみるとその製品の使い手、つまりユーザーもイノベーションを行っていることがわかってきました。ユーザーがなぜ、どのようにイノベーションを行うのか、これが私の研究関心です。商学（総論）特殊講義A・Bではこのユーザー・イノベーションの入口部分の知識修得を、演習ではそれをさらに発展させるための研究指導をそれぞれ行っています。他の大学院や研究機関ではあまり学ぶことができないこの先端的な研究に触れてみませんか？

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/read0209174>

安田 武彦（やすだ・たけひこ） 教授

担当科目名： 産業経済論特殊講義A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

研究分野は、産業経済のイノベーションと企業戦略です。サービス産業を中心に、第4次産業革命、Society5.0の時代におけるプロダクトイノベーション、生産性を向上させるプロセスイノベーションの研究をしています。現在はカルチュラルイノベーションによる地域創生に焦点を当てています。商学演習では、イノベーション理論をベースとして、アニメなど映画産業の国際戦略、CASE時代の自動車産業の戦略、スポーツビジネスの国際比較といったテーマの論文指導をしています。新しい時代の意味のイノベーションを共に研究していきましょう。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/031616>

築田 優（やなた・すぐる） 准教授

担当科目名： 証券市場論特殊講義 A・B、商学演習、外国文献研究（日）

研究の紹介・アピールポイントなど：

・研究の紹介 証券市場のデジタル化、フィンテック、サステナブルファイナンスなど、証券市場に関する現代的な諸問題についての研究を行っています。

・アピールポイント 証券市場をある「時点」だけで切り取るのではなく、過去から未来へと続く「線」としてとらえる視点を大切にしています。歴史的経緯の検証から始め、現状分析を丹念に行い、将来を見通すことを重視しています。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/yanata>

山倉 和紀（やまくら・かずのり） 教授

担当科目名： 国際金融論特殊講義 A・B、外国文献研究（英）、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

私の専門分野・担当科目は国際金融論ですが、特に興味があるのは、変動為替レートに関する学説と政策思想です。具体的には、最初期の変動為替レートともいえる 18 世紀末から 19 世紀初頭にかけての英愛為替関係と 1804 年のアイルランド為替論争が研究対象です。当時の論争参加者たちの為替学説・政策思想を検討しながら、為替論争の再評価を行っています。そこでは現代にも通じる多くの課題が議論されており、中央銀行による為替介入論まで登場しています。私にとっては宝箱のような時代です。

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/read0044645>
